

## ぼたん園

平成4年(1992年)にオープンいたしました。敷地は16,000㎡、東京ドームより少し広い面積があり、ポタン、シャクヤクの開花中は、多くの方にご来園いただいています。当初、127品種、780株のポタンが植栽されていましたが、現在は約330品種、約1,700株のポタンがあります。

中国、アメリカ、フランス、日本のポタンがあり、色も花形も様々な種類があります。同じ品種でも株や枝によって花びらの数や花形、色も少しずつ違い、奥深さが魅力の一つです。

シャクヤクは約60品種約600株あり、ヨーロッパ、アメリカ、中国、日本の園芸品種を植栽しています。

ぼたん園には休園日がなく一般公園として、開花期間中以外は、『無料』で入園できます。紅葉も美しく、松には雪吊りもかかり、冬の風物詩となっています。



## ポタンの山について

ポタンの根元が山になっているのは、理由があります。地面にシャクヤクの根を置き、ポタンとの接ぎ木部分を5cm隠すように植えてあります。中国を原産とするポタンは湿気をたいへん嫌いますので降水量の多い日本では、この植え方が一般的です。梅雨時の水はけを確保する意味でとても効果があります。



## 寒ポタン

江戸時代、元禄年間の頃、秋から冬(10月下旬から12月)にかけて咲くポタンの品種が生まれました。一般に春にも咲くので、『二期咲き種』とも言います。冬の花は春の花よりはるかに小さく咲くのが特徴です。

## 冬ポタン

ポタンも他の植物同様に、促成栽培が普及しています。春咲きの品種を冷蔵・加温することによって、早く咲かせたものを『冬ポタン(フユポタン)』といい、その中でも正月に咲かせるものを『正月牡丹(ショウガツポタン)』といいます。



ポタン：鳥錦

## ポタンとシャクヤクの違い

ポタンとシャクヤクはいずれもポタン科ポタン属(paeonia)の植物です。中国で古くから同属の中で木(木本性)のものをポタン、草(草本性)のものをシャクヤクとして区別して扱ってきました。

日本への渡来はともに奈良時代で薬用植物としてでしたが、その後、日本独自の改良がなされ、特に江戸時代以降に、著しい発展を遂げて現在に至っています。

## ポタンの普及の歴史

ポタンの増やし方には、色々な方法がありますが、日本国内で販売されているポタンのほとんどが、シャクヤクの根に接ぎ木をしています。その昔はポタンに接ぎ木をしていたようですが、明治30年(1897年)頃、新潟県新津の江川啓作氏と四柳徳治郎氏がシャクヤクへの接ぎ木技術を完成させました。それによりポタンが一般に普及されるようになりました。



シャクヤク

## フランスポタンについて

フランスで作出されたポタンは、園内に5品種あります。フランス語ではわかりにくいので和名がついています。和名は日本牡丹協会顧問故牧野富太郎博士が、命名されました。金帝(きんてい)1909年、金陽(きんよう)1913年、金閣(きんかく)1919年、金鶏(きんし)1928年、金晃(きんこう)1935年発表され全て黄色です。日本ポタンは上を向いて咲きますが、フランスポタンは下を向いて咲くのが特徴です。

## ハイブリッド

ポタン(母)とシャクヤク(父)の交配種をこう呼びます。東京の伊藤東一氏によって京王百花園で交配が試みられ「花香殿」×「金晃」の実生から10年の歳月を経て氏の没後1954年に開花しました。アメリカのスミルノウ氏がこの伊藤ハイブリッドを持ち帰り「オリエンタル・ゴールド」を発表しました。

## 鯛釣草(タイツリソウ)

ケマンソウ科コマクサ属です。中国、朝鮮半島原産の植物でポタンの葉と似ていますが、別の植物です。ケマン草、藤ポタン(フジポタン)、瓔珞ポタン(ヨウラクポタン)とも呼び、中国では荷包ポタン(カホウポタン)、アメリカではブリーディングハート、セールフラワーと呼ばれています。鯛釣草(タイツリソウ)とは、花穂を釣竿で鯛を釣り上げているところに見たてたものです。



## 中国ポタンについて

ポタンの原種は8種類、すべて中国にあります。中国ポタンは、葉が丸く厚みがあるのが特徴です。品種改良は、唐の時代以降盛んに行われ、花びらの少ないものから、もりあがり咲きのもので、多くの品種があります。

## アメリカポタンについて

アメリカ品種は、黄色いポタンと茶色いポタンが原種で中間色も存在し色のバリエーションに富んでいます。カタカナで書かれているハイブーン等のポタンがアメリカポタンです。特徴としては、葉の切れ込みが大きく日本のポタンとは、草姿や花の香りもずいぶん違います。